

『日に新たに』
令和8年度 校長室便り
(7月1日) (第6号)



「成功」よりも「成長」

目標を持って何かにチャレンジして失敗したら、後には何も残らないのでしょうか？外からみれば、それは失敗かもしれません。でも自分にとってみると、その過程で努力した事実は残りますし、取り組んだ前と後では、大きな変化が感じられるはず。つまり、「成功」は第三者が感じる外部の評価であって、「成長」は自分の内側に感じる自分だけの評価です。人前で話せるようになったり、少しでも楽器が弾けるようになったりすることは、自分だけが感じる達成感や満足感だと思います。「成功」だけを求めて、そのために失敗が怖くて挑戦しないよりも、挑戦してみても自分が「成長」できたと感じられる方が、次へ進む原動力になると思います。自分の「成長」を求めて挑戦しましょう。

「長崎総合科学大学と垂水市との包括連携協定締結式」



6月29日(月)市役所にて「長崎総合科学大学と垂水市との包括連携協定締結式」が行われ、オブザーバーとして参加させていただきました。昨年度に引き続き、本年度創立記念講演会でご講演をいただいた栗田るみ子教授が、長崎総合科学大学の学長補佐であり、垂水市(垂水高校)のご出身でもあることから、垂水市の産業、観光、伝統文化・芸術等にこれまで大学が積み上げてこられた知見と専門性を生かして、お互いに連携していこうという運びになったそうです。

さらに連携の内容に「垂水高校の振興」という側面も加えていただきました。そのため、今後「長崎総合大学」と「垂水高校」との連携についても検討していく予定になっています。大学の先生方や大学生に皆さんの授業(探究活動を含めて)や部活動、講演会等で、ご指導や支援をいただくことを考えています。楽しみにしておいてください。

第46回全国高校生英語弁論大会
鹿児島県代表選考会 優良賞



6月8日(月)県教職員互助組合会館で行われた「第46回全国高校生英語弁論大会鹿児島県代表選考会」に、3年生の北迫さんが出場し、見事優良賞(第3位)を受賞しました。

「A Bridge from Tarumizu to the World」というタイトルで、自分がスーパーでアルバイトをしていた時に困っている外国人を助けられず、その後ベトナムでの研修を通して意識が変わり、垂水市の多文化共生まちづくりプロジェクトに参加することで、前向きで積極的な自分変わったという素晴らしい内容です。

上位入賞を果たしましたので、7月10日(金)鹿児島市中央公民館で開催される「九州地区代表選考会」に出場することになっています。県代表として堂々と発表してきてください。応援しています。

バイオリンのフチコンサート



6月18日(木)4限目、2年2組の音楽(バイオリン)の授業に招待されました。この日がバイオリンの最後の授業ということで、2年生になってから習得した「おすんでひらいて」「アレグロ」等の4曲を披露してもらいました。感動しました。

自分で習いにでも行かないと、生涯にわたってバイオリンに触れる機会はなかなか持てないと思います。授業で体験して数曲でも弾けるようになるなんて本当にありがたいことです。羨ましくさえ感じました。

6人が揃って素敵な音楽を奏でていたので、老人ホーム等を慰問するとききっと喜ばれるのではないかと思います。

素敵な時間をありがとうございました。

6月22日 全校朝礼



6月22日(月)全校朝礼では、英語弁論大会と茶道裏千家・初級の許状の表彰を行いました。

3年生の北迫さんは先日行われた県の英語弁論大会で3位に入賞し、7月に行われる九州大会に出場することになっています。せっかくの機会なので、英語の弁論を披露してもらいました。

その後、私は「これからの時代で求められるのは、ジェネラリストよりはスペシャリスト」という話をさせてもらいました。

これまでは、例えば、各教科万遍なく優秀な成績を収めて、大学等へ進学し有名企業に就職して、将来が安泰の生活を送ることが望まれていました。企業においても、幅広い領域で多様な知識と経験を生かした業務やマネジメントに取り組む人が求められていました。それがいわゆる「ジェネラリスト」です。何事にも精通した人です。

しかし、現在は人生100年時代。変化の激しい時代でいったん身につけたスキルが、数年も経てば時代遅れになってしまうような時代です。一回身につけた技術が、生涯にわたって通用するという時代ではなくなりました。そのため、専門職を生かし、特定の業務に特化したスキルを常にアップデートして、自分で高めていく「専門職が求められる時代」とも言えると思います。

社会に出て仕事に就く場合、確かに何事にも精通し、どの分野にも柔軟に対応できるに越したことはありません。しかし、それだけではなく、「この分野なら他人には負けないし、自信を持って会社や社会に貢献できる」分野に特化して、それを極めていこうという考え方も、これからは大切になるのではないかと思います。

北迫さんのように、英語が好きでそれを極めて表現してみようとか、山田さんのように、興味を持った分野を深く掘り下げて探究してみようという考え方が、これから将来を考える上で大切になってくるのではないかと思います。

皆さんも、ぜひ「自分の好きな分野」や「気になる分野」を探究して、その分野で社会に貢献してみようという姿勢も大切にしてみてください。